

構職員は、もともとの一時金源資の考え方の違いから減額がありません。旧サイクルの職員は統合後の統一処遇に向けて本給を旧原研の水準に向けて減額する話があるものの、実際の減額はまだです。また減額を始めても平成21年までに段階的に行なうようなことをいっています。

本給と一時金の和でみれば、労組は旧サイクルのほうが旧原研より処遇が高いと考えています。にもかかわらず、高いほうはそのままに、低いほうをいきなり切り下げる機構のやり方は全く理解できません。

### < 不公平の拡大 都合の良いところだけそろえてお手盛りまで >

さらに、最近わかったことでは、統合直後昨年12月期一時金で旧サイクル職員の一時金は一昨年よりも約6%増額されていたことがわかりました。切り下げどころかお手盛りをしていたのです。勝手にやり放題です。

こういう不満に対して機構側の交渉員は、「本給と一時金では位置づけ違う」とか「旧サイクル職員も将来本給が下がり、それは退職金にまで影響する」とか言っています。しかし、現に統合後の1年間全く下がっていないし、数年後に下がっても旧原研並どまりです。比較になりません。

本来、統合し、同一法人になったのなら、同じ仕事なら同じ処遇にするべきです。それをそろえないどころか、一方に都合の良いところだけそろえ、一方に都合の悪いことはできるだけそのままにされています。

都合の良いところ：定年制度、一時金の係数

都合の悪いところ：本給 などです。

機構は「処遇統合の途中だから」などといって、不公平の言い訳をしています。しかしわれわれは、統合法が決まってすぐの時点から、統合後の処遇について話し合う姿勢を示し、お互いデータや考えを率直に示して話し合うことを求めてきました。にもかかわらず、円滑に交渉が進みませんでした。それは、経営側が率直な交渉に応じなかったためです。

旧原研にとっては、長年の約束であった定年の年度末への一本化が、統合で実現しなかったことをはじめとして、いいことが何もありませんが、それだけでなく、このような不公平な扱いをされては腹が立つばかりです。とても「融合」だの、シナジー効果などおかしう聞いてられません。

機構の態度に対しては、分会はもちろん、非組合員からも不満の声が上がっています。

・旧原研職員の処遇だけ、なぜ急激に引き下げるのか？そのような処遇の差をつけられる理屈が理解できない。

・こんな内容だったら、もっと強く闘争すべき(デモ、2次闘争)

・あゆみ速報だけが情報源。処遇の差は、聞くだけで気分が悪くなる等です。

## ==== あゆみ速報家庭報告版 =====

### 12月期一時金

(12月1日)拡大窓口交渉、団体交渉 とともに決裂

統合後の賃金処遇において、

**[この1年余、旧原研部分だけが切り下げられ、不公平だ]**

という声に、機構は納得できる返答せず。

機構は 12月8日に一方支給することを宣言

1から5級及び6級総括主査の配算式：

本給×2.535 + 6,500円×F + 66,637円

Fは機構規程による扶養家族数、

\*旧サイクル機構職員の場合、定額項は人事評価査定により変わることがあります。

## 原研労組はストライキを決行

12月1日 16:30から17:30

ストライキスローガン：

1、旧原研職員のみへの不公平な切り下げをやめろ

1、新人事評価制度が合意されるまでは、

旧サイクル機構職員も含めて係長職以下には査定を入れるな

1、上位級に入っている多重な加算を減らし、下位級に回せ

### < われわれの主張 >

12月期一時金の交渉が進められています。先の6月期一時金では、旧原研職員は昨年よりも約6%の減額になりさらに、これまで具体的な配算式を労組の主導で決めていたものを、慣例を破り、機構の考えを押し付け、一方支給しました。

今回は、事前に配算式についての予備協議はされているものの、機構は昨年比6%の切り下げを言っており、譲る気配がありません。これで、6月期と合わせると平均で10万円以上の減額になります。

このように旧原研職員にとっては、一時金が切り下げられていますが、一方の旧サイクル機